ダメな私

ヤシマ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ダメな私

【Ｎコード】
Ｎ３９０７Ｍ

【作者名】
ヤシマ

【あらすじ】
人として、何が大事なのかを問う物語。
優しさか？
上に上がるための冷酷さか？

私は何をやってもダメな人間だ。
勉強だって、どんなにがんばっても平均以上なんて、とてもじゃないけど取れない。
走ったって、どんなにがんばっても一番遅い。
球技でも、どんなにがんばってもまともにボールに触れない。
人との付き合い方だって私は下手だ。
友達と呼べる人はほとんどいない。
それに、顔だって良い訳じゃない。

私はフェンスを乗り越えた。
風がほほをなでるように吹いた。
その風の優しさが、心にしみた。
イヤになった。
ただそれだけ。
いろんな事がうまくいかない。
努力してるのに、結果が出ないから認められない。
そんな社会では生きていけない。

下を見下ろすと足がすくむ。
何メートルあるのかは分からない。
それでも分かるのは、落ちたら確実に死んでしまうということだ。
怖い。
体がこわばる。
でも・・・でも、こんな私でも、覚悟はできている。
誰もが適当に言ってる「死にたい」ではなく。
一切躊躇のない「死にたい」
後はすべて起こった事に身を任せるように体重を移動させようとし

た。

そのとき声がした。
とても不思議な声だった。
もう誰も声も聞かないと思っていたのになぜか聞き入ってしまった。
「もし、すべてがうまくいくようになったら死ななくても良いのか？」
特徴ない地味な黒いスーツに身を包んだ男が壁に寄りかかるように立っていた。
「え？」
「いろんな才能を手に入れたら、人に認められるようになったら、人の上にいけたら、死ななくても良いのか？」
それは私が望んだ現実だ。
やった分の努力が、しっかり認められて、私という存在が存在すべき場所があること。
「はい。」
死にたいという覚悟は、いとも簡単に消えてしまった。
やっぱりその程度だったのだと、自分を嫌悪した。

男が手を差し出してきたので、その手をつかむと世界が一転した。
その光景ははまさに地獄と呼ぶに値した。
流れる川は、真っ赤に染められていて、聞こえてくるのは断末魔だけ。
「今から怒ることに、耐えられたら人をこえることができる。人に認められることができる。準備は良いか？」
「はい。」
何が起こるかはわからなかったが、ただ、耐えられる自信はあった。
根拠のない自信は、どうしてか現実となった。
どんな苦痛にも私は負けなかった。
「次で最後だ。」

この調子だと、乗り越えられると思った。
どんなに辛い事があっても、今まで味わってきた屈辱を拭えるのなら、軽いと思った。
しかし、目の前に広がった光景に私は息を飲んだ。
数少ないが、私の友達が蹂躙されていた。
「人の上にたつには、心が、優しさが邪魔だ。人の上にたつ言うことは、人を蹴落とすことだ。お前はすべての肉体的苦痛に耐えることはできた。後は優しさを、邪魔な仲間意識を取り去ることだ。」
何をやってもダメな私にやさしく声をかけてくれた友達が苦痛に顔をゆがめている。
でも、それを、それを見て見ぬふりをすればいろんな才能が手に入る。
もうすこし、もうすこし。
しかし、苦しみに染められた友達の一人と目が合ってしまった。
心の中で小さな疑問が生まれた。
本当にこれでいいの?
確かに人を蹴落とさないと、上には上れない。
でも・・・でも。
「もうやめて!!」
やはり、友達を見捨てることはできなかった。
やっぱり私はどこまでも中途半端で、何をやってもダメで、最後の最大のチャンスも逃してしまった。

地獄絵図がもとの景色に戻る。
私はガックリと膝を落とした。
目からは涙がこぼれ落ちた。
悔しかった。
もう一度、もう一度死んでやろうとフェンスに手をかけた。
「お前は、確かに何をやってもダメだ。人の上にたつ資格、素質なんて一切持ってない。でもな、自分の願いを捨ててまで、人を思い

やる優しい心を持っている。近い将来、このまま努力していれば、必ずお前を認めてくれる。やめてしまえばそこまでだ。」
今までかけてもらったことのない言葉に心打たれ、涙を拭ったら、その男はもういなかった。

私はあれ以来まだ生きている。
日常にたいした変化はない。
もし、あの時あのまま友達を見捨てていればどうなっていたのか。
今となってはもう分からない。
でも、それについて後悔はしていない。
日常にたいした変化はない。
でもちょっとした変化が現れ始めた。
テストでは、平均点を超えられるようになってきたし、体力もついてきた。
今まで以上に人と話せるようになった。
それに、それら以上に私の努力が認められ始めた。
私は信じてる。
優しさは、人を超えることはできない。
けれども、人に認められることはできる。

（後書き）

書き終わってみると、最後の落とし所がしっかりできなかったのが残念。

もうちょっと寝かしておくべきだったのかなぁと、考えてたり。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3907m/

ダメな私

2011年1月8日20時30分発行